

大府地区民生児童委員協議会による
「一人暮らし高齢者との交流会」に協力参加
文化福祉部会



ふれあい

大府コミュニティセンター

編集発行
大府コミュニティ
推進協議会
ふれあい部会
事務局
大府公民館
TEL 48-1007



第 18 回
大府夏まつり
開催



助けあう
家庭と地域を
創造しよう



歩行者
自転車
交通安全教室
(交通防犯部会)



「お祭り 今昔日記」

あなたと私はちがっても

大府生まれの子どもには

大府がふるさとなのだから



♪ピーピーヒャララ♪ピーピーヒャララ♪

二十年前ぶりに地元の神社を訪れてみたら聞き覚えのあるなつかしい笛の音が、近くから聞こえてきます。子供達によるおはやしの練習なのでしよう。そう言えば、もうすぐ秋祭り。転勤で地元を離れていた私ですが、子供の頃体験したお祭りが楽しい思い出としてよみがえってきます。母の作った巻きずしや、箱ずし、おいしかったなあ！

編集会議をする中で、メンバーの一人からこんな発言がありました。そこで今回の紙面では熱田神社の祭礼についてとりあげてみました。

熱田神社のお祭りの花形の一つは、「マントウ（馬塔）」です。これは駆け馬による奉納行事で、マントウの多くは駆馬（くば）です。境内に柵で囲った円形の馬場を特設し、その中を若者と馬がいっしょに駆け回るものです。

特別な馬場をつくらず、道路や境内を自由に駆け回る献馬（けんば）と区別しています。大府史誌をひもとくと昭和初期の状況が、次のように書かれています。

むらの若い衆は、九月になると公会堂に集まって、笛や太鼓の練習をはじめ。馬見（馬主との契約）や馬宿が決められ、境内には馬場が設けられる。神楽（祭りの前日）には、若い衆が宿に集まり、振る舞い酒で歓談する。

本楽（祭りの当日）の早朝、馬係はマントウの馬を高岡（豊田市）や東境（刈谷市）までむかえに行く。馬は宿入りした後、皆瀬川で水垢離をし、公会堂前に引き出される。そこには、十数頭の馬と馬主、そしてはつぴ姿の若い衆が勢揃いする。

午前十時ごろになると、一行は祭りばやしに合わせて、道々酒肴を振る舞いながら神社に繰り込んで行く。すでに神前では神官による神事がすまされ

ており、いよいよ駆け馬の開始となる。一頭ずつ馬場に放された馬は、背につけた鈴を鳴らして駆け回る。若い衆が勇敢に馬の顔の横の止まり綱やたて髪にしがみつく。見物人がむちで馬をたたき、駆け馬は、午後四時ごろまで続けられ、そこで馬止めとなる。

夕方になると、若い衆が神馬の口綱や緒綱をもって、むらの家々を廻る。各戸からは祝儀が出される。馬宿では馬や馬主の労をねぎらい、馬返しをして祭りの幕を閉じる。

現在は、熱田神社御馬頭実行委員会の皆様により馬の手配や柵作り等が行なわれています。馬方さんの手により大府市吉田町、北崎町、刈谷市、高浜市、名古屋市桶狭間などから馬が十五頭（子供達のおたのしみとなるポニー三頭を含む）集められます。当日の早朝「安全に、怪我のないように」と延命寺にて清めて頂いたり、専唱院の馬頭観音へご祈禱にいたりします。

また、資金の提供者である三十前後の数の団体、個人からなる奉納者を馬とともに訪問するましまわりが行われます。当日の朝、見かけたりした皆さんは「ああ〜」あれかと想い出されるのではないのでしょうか。

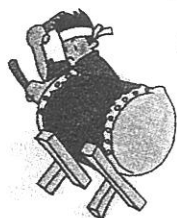
マントウは、午前九時半から午後三



時まで行われます。鈴を背につけた馬に若い衆が勇敢に馬の顔の横の止まり綱やたて髪にしがみつくところは、今も昔もかわりませんが、飛び入り参加者もあるとのこと。保険にはいるなどして配慮しているとのこと。

祭りでは、マントウの他にも山車、みこし、もち投げ、抽選会、などがあります。山車は、山の神祭りばやし保存会、南祭礼運営委員会、中組山車保存会の皆さんによりまちの中を引き回されます。笛や太鼓のおはやしの練習が別表のように行われています。皆様の子ども達も興味があるようでしたら是非参加してみたいかがでしようか。現在では、ご家族や学校の先生以外、日頃おとなと接する機会の少ない子供達にとって、伝承文化を学ぶとともに、思い出作りや地域の人々とのふれあい等貴重な体験になると思います。

最後になりますが、今回の取材に快く協力して頂いた皆様に心からお礼を申し上げるとともに、お祭りに協力して企画実行するメンバーに新しく参加してくれる人が最近は少なくてねえ！との事でしたので、是非興味のあるかたは、参加してみたいかがでしようか！



<名 称>	<練習場所>	<練習日>	<連絡先>	<子ども会員>
山の神 祭りばやし保存会	山 祇 社	毎月第1・3水曜日 19:30～20:40	河合敏晴 46-0369 山下康二 48-7976	小学生男子 約40名 中学生男子 約10名
南祭礼運営委員会	南島集会所	お盆すぎから始める	深谷 貢 46-4094	小・中・高生男子中心
中組山車保存会	大府公民館	9月から週3回	石川一敏 46-0533	小学生男女 20～30名

大府小学校区地域ネットワークが誕生して四回目、今年も六月三日に連絡会を開き、本年度の取り組みの基本的な方針などについて確認しました。

総会には、大府小学校・大府中学校 両校PTA・民生・児童委員・大府コミュニティ家庭教育部の六つの構成団体のほか、平成十年度四月に発足した「通学路こども110番の家」の方々にも参加していただき、子どもたちの様子について情報交換をしました。

その連絡会の中で、変質者の出没、子どもたちの交通マナーの問題が取り上げられました。大府市内では、本年度四月より、たびたび変質者が出没しています。「知らない人に声をかけられた」「不審な人に後をつけられたりおどされたりした」「近くの公園に連れていかれそうになった」などの事件がありました。

学校では、子どもたちに対して、自分を守るための注意点を時と場に応じて指導していますが、それだけでは、十分とは言えません。学校・家庭・地域それぞれが協力し合って、子どもたちの安全を守るよう働きかけていきたいと思います。そういう意味で、こ

大府小学校区地域ネットワークだより

学校・家庭・地域の連帯感を深め、
心豊かな人間性を育てる

ネットワークづくり

の地域ネットワークは、情報発信源となり、情報の早期収集、他の団体への早期連絡などの役割を果たしていかれたと考えています。

もう一つ大きな話題となった交通マナーの件も四月から様々な方から情報を寄せていただいています。もちろん学校では、子どもたちへの交通安全への意識づけや安全な自転車乗りの方などの指導を行っています。しかし、十分な指導であるとは言えません。コミュニティや子ども会でも取り組んでいただいておりますが、家庭や地域の方の一層の助言・指導をお願いしたいと思っています。

大府小学校区地域ネットワークでは大府小学校区の子どもたちを健全で心豊かな人間に育てていきたいと願っています。そのためには、学校・家庭・地域がなお一層互いの連携を密にし、地域全体で、大府小学校区の子どもたちを育てていくとする連帯感づくりが大切ではないでしょうか。その中心的な役割をこの地域ネットワークが果たせたらと考えています。今後、皆様のご協力・ご支援をよろしくお願い致します。

あの人の人

ミレニアムなダンディ

久野量三さん

桃山町二

桃山町で「大府愛犬病院」を開業している久野さんは、生粋の大府っ子。

大学時代と獣医としての経験を積んでいた数年だけ大府を離れていたが「よく帰ってきたな」のまわりの一言ですんなりと地元で溶け込めたという。

旧友らと酒を酌み交わしながらふるさと談義を繰り広げていた時のこと。子どもの頃血わかせ、胸おどらせた祭りに山車の一つも出ていないことを知り、友人らと共に山車の復活に東奔西走した。こうして誕生したのが「中組山車保存会」だ。その中で一番困ったことはおはやしのための子供集めだった。小学校高学年だけでは人数不足と低学年まで枠を広げたり、それでも足りず女子にも枠を拡大した。昔ながらの神事においてこれは画期的なことだ。

大府コミュニティには、他に北組、南組の山車保存会があるが、今でも女子に門戸を開いているのはここ中組だけ。暗中模索の中、時代を先取りしていく久野さんの姿が浮かび上がる。



「僕も子供たちと一緒に笛や太鼓の練習を始めたんだ。でも、昔とった何とやらで覚えるの早かったよ」体に染み込んだおはやしのリズムと共に祭りのしきたりや準備の手順などを次世代へ伝えていくのが久野さんたちの使命だという。

「今は、最初の頃ほど大変じゃないんだ。祭り近くになると日程を空けてみんな待っていてくれるし、大きい子が小さい子の面倒を見てくれるからね。学校とは違った上下関係を居心地よく思っている子が多いみたい」活気を

取り戻した祭りだが、立派なものとは言いがたい山車を何とかするのが今後の課題だという。

久野さんのエネルギーギッシュな活動は「中組山車保存会」にとどまらない。創設時からかわっているソフトボールチーム「テンシヨンス」では、主力メンバーとして心地よい汗を流す。五月から十月にかけてのナイターリーグ、商工会主催の早朝ソフトボール大会で大活躍。日焼けした笑顔を見てウンと思わず納得した。「午前6時半に集まるんだよ。さすがにこれはキツイ」という本人の弁をしりぬに「そんなこと言ってもちゃんと自分で起きて行くのよ」と奥様が打ち明けてくれた。「妻同士のチームワークもバツチリ。応援でも日常生活でもね」奥さんを巻き込んでのチーム活動。これが長続きしている最大の秘訣かもしれない。

もう一つ力を入れているのが東知多ロータリークラブの活動だ。ロータリークラブは、職業を通じて社会に奉仕する団体。毎週土曜日の午後に関われるミーティングに出席する時間があるのかの質問に、午前の診療を終え、午後の診療が始まる四時までの時間に出席、往復するのだと話してくれた。久野さんをそこまで突き動かすものは何なのか。「ロータリークラブの理念に賛同したとしか言いようがない。無理をしているわけではなく生活のサイクルに活動が組み込まれているんです」



志高く未来を見つめ、充実した日々を送る久野さんに奥様が最後に一言。
「現役を引退したら二人でいろいろ旅をしようね。そのためにも、体だけは気をつけて」
久野
「夫妻に乾杯！」
H

あとがき

夏まつり、産業まつり、秋まつり、今年もいろいろな季節に、いろいろな場所で、いくつものまつりがおこなわれました。そこには、まぎれもない人と人のつながり「ふれあい」があります。パソコンのディスプレイをみつめる目ではない、人と人がみかわす目。これこそコミュニティの原点です。

いよいよ二〇〇〇年がスタートします。よいお年をお迎えください。

— M —